



会場に並べられた交通事故被害者の等身大パネル（橿原市で）

事故被害者の靴 生きた証し

交通事故で亡くなった人の遺品や等身大パネルを展示し、命の大切さを伝える「生命のメッセージ展」が26日、橿原市の運転免許センターで始まった。28日まで。

秋の全国交通安全運動（21～30日）に合わせ、免許更新時に改めて安全運転を意識してもらおうと県警などが企画した。2012年4月に京都府亀岡市で、無免許の元少年が運転する車が小学生の列に突っ込み、児童ら10人が死傷した

事故の犠牲者など、20体の等身大パネルに、顔写真や事故の状況、遺族の手記が添えられ、足元には履いていた靴も並べられている。

犯罪被害者支援を行うNPO法人「KENTO」（奈良市）代表で、長男の健仁さん（当時18歳）を交通事故で失った児島早苗さん（71）は、「パネルの前に立ち止まって、被害者の人生や遺族の思いを知り、自分の運転を振り返ってほしい」と願った。

橿原生命のメッセージ展